

[Previous Doc](#)[Next Doc](#)[Go to Doc#](#)[First Hit](#)

Generate Collection

L7: Entry 1 of 27

File: JPAB

Mar 21, 2001

PUB-NO: JP02001072572A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2001072572 A

TITLE: SKIN PREPARATION FOR EXTERNAL USE

PUBN-DATE: March 21, 2001

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

OGAWA, ATSUKO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

NOEVIR CO LTD

APPL-NO: JP11254431

APPL-DATE: September 8, 1999

INT-CL (IPC): [A61 K 7/48](#); [A61 K 7/00](#); [A61 K 7/035](#); [A61 K 7/06](#); [A61 K 31/00](#); [A61 K 35/12](#); [A61 K 35/28](#); [A61 K 35/50](#); [A61 K 35/64](#); [A61 K 35/72](#); [A61 K 35/74](#); [A61 K 35/84](#); [A61 K 38/00](#); [A61 K 35/60](#)

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a skin preparation which is used for external use, can effectively utilize fish skins which are industrial wastes, can sufficiently exhibit the moisture-retaining and skin-protecting effects of elastin, and is useful for preventing the aging of skins.

SOLUTION: This skin preparation for external use contains a hydrolyzed elastin solution originated from fish skins, and an ingredient selected from a cell-activating ingredient and an anti-inflammatory ingredient. The cell-activating ingredient includes 2-hydroxycarboxylic acids, specific vitamin-like active substances, nucleic acid-related substances, serum-removed protein extracts, spleen extracts, placenta extracts, cockscom extracts, royal jelly, Ganoderma lucidum extracts, yeast extracts, lactobacillus extracts, bifidobacterium extracts, and bittern ingredients. The anti-inflammatory ingredient includes glycyrrhizic acid, glycyrrhetic acid, isopropylaminocaproic acid, azulene, lysozyme, salicylic acid, 7-oryzanol, allantoin, their derivatives, and their salts.

COPYRIGHT: (C)2001, JPO

[Previous Doc](#)[Next Doc](#)[Go to Doc#](#)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-72572

(P2001-72572A)

(43) 公開日 平成13年3月21日 (2001.3.21)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テームコード* (参考)
A 6 1 K 7/48		A 6 1 K 7/48	4 C 0 8 3
7/00		7/00	K 4 C 0 8 4
			C 4 C 0 8 7
			H 4 C 0 8 8
7/035		7/035	4 C 2 0 6

審査請求 未請求 請求項の数3 O L (全 9 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願平11-254431	(71) 出願人	000135324 株式会社ノエビア 兵庫県神戸市中央区港島中町6丁目13番地の1
(22) 出願日	平成11年9月8日 (1999.9.8)	(72) 発明者	小川 篤子 滋賀県八日市市岡田町112-1 株式会社 ノエビア滋賀中央研究所内
		(74) 代理人	594044059 小川 篤子

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 皮膚外用剤

(57) 【要約】

【課題】 産業廃棄物であった魚皮を有効利用し、またエラスチンの有する保湿及び皮膚保護の効果を十分に発揮し、皮膚の老化防止に有用な皮膚外用剤を提供する。

【解決手段】 魚皮由来の加水分解エラスチン溶液と細胞賦活成分及び抗炎症成分より選択される成分を皮膚外用剤に配合する。細胞賦活成分としては、2-ヒドロキシカルボン酸類、特定のビタミン様作用物質、核酸関連物質、血清除蛋白抽出物、脾臓抽出物、胎盤抽出物、鶏冠抽出物、ロイヤルゼリー、霊芝抽出物、酵母抽出物、乳酸菌抽出物、ビフィズス菌抽出物、ニガリ成分等が、抗炎症成分としては、グリチルチリン酸、グリチルレチン酸、イソプロピルアミノカプロン酸、アズレン、リゾチーム、サリチル酸、 γ -オリザノール、アラントイン及びそれらの誘導体並びにそれらの塩等が例示される。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 魚皮由来の加水分解エラスチン溶液と、細胞賦活成分、抗炎症成分から選択される1種又は2種以上の成分を含有する皮膚外用剤。

【請求項2】 細胞賦活成分が、炭素数2～22の2-ヒドロキシカルボン酸及びその塩並びに誘導体、ビタミンC、ビタミンE、ビタミンP関連化合物を除くビタミン様作用物質、核酸関連物質、血清除蛋白抽出物、脾臓抽出物、胎盤抽出物、鶏冠抽出物、ロイヤルゼリー、霊芝抽出物、酵母抽出物、乳酸菌抽出物、ビフィズス菌抽出物、ニガリ成分から選択される1種又は2種以上である、請求項1に記載の皮膚外用剤。

【請求項3】 抗炎症成分が、グリチルチリン酸、グリチルレチン酸、イソプロピルアミノカプロン酸、アズレン、リゾチーム、サリチル酸、 γ -オリザノール、アラントイン及びそれらの誘導体並びにそれらの塩から選択される1種又は2種以上である、請求項1に記載の皮膚外用剤。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、保湿作用及び真皮線維芽細胞活性化作用が相乗的に増強され、しわの発生、皮膚弾性の低下といった皮膚老化症状の防止あるいは改善に有効な、皮膚外用剤に関する。詳細には、魚皮由来の加水分解エラスチン溶液と、細胞賦活成分、抗炎症成分から選択される1種又は2種以上を配合した、皮膚外用剤に関する。

【0002】

【従来の技術】エラスチンは、弾性繊維の主成分であり、不溶性の蛋白質で、靱帯、皮膚等の伸縮性に富む臓器に存在する。このエラスチンは皮膚の保護並びに保湿剤として化粧品への配合が期待されてきた。しかしながら、エラスチンは不溶性であるため、そのままでは化粧品処方中に配合することが困難であった。そこで、エラスチンを可溶化して配合する試みがなされている。例えば、可溶性の加水分解エラスチンを配合した化粧品（特開昭53-72832）、水溶性天然エラスチン及び／又は酵素により可溶化処理したエラスチン加水分解物を配合した毛髪及び皮膚化粧品（特開昭54-105238）、エラスターゼにより可溶化した化粧品用エラスチン（特開昭58-192812）、可溶性エラスチン及び／又は可溶化エラスチンと保湿剤及び／又は生理活性物質を併用した皮膚化粧品（特開昭59-139308）、エラスチン加水分解物を乳化剤として配合した皮膚用油中油型エマルジョン（特開昭59-231007）、分子量15,000～300,000のウシ項靱帯由来エラスチンを配合した皮膚及び毛髪用組成物（特開昭60-258107）、分子量200,000以上のエラスチン加水分解物を乳化剤として配合した乳化組成物（特開昭63-302934）、1,3-ブチレングリ

コール、プロピレングリコールによりエラスチン加水分解物水溶液を安定化する方法（特開平2-167211）等の技術が開示されている。しかしながらこれらのエラスチン加水分解物は、牛や豚、鶏など家畜動物を基原にするものが殆どであった。

【0003】また、魚皮にエラスチンが豊富に含まれていることは既に公知である。しかしながら、水産加工業から生じる魚皮は産業廃棄物とされており、年間を通じて多量に廃棄されている。近年の産業廃棄物の有効利用に関する研究により、魚皮からエラスチンを加水分解してコラーゲンとともに単離する技術も開示されている（特開平5-202097）。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明においては、産業廃棄物であった魚皮を有効利用し、また、エラスチンの有する保湿及び皮膚保護の効果を十分に発揮し、皮膚の老化防止に有用な皮膚外用剤を提供することを目的とした。

【0005】

20 【課題を解決するための手段】本発明者は、前記問題点に鑑み研究を行った結果、魚皮由来の加水分解エラスチン溶液と細胞賦活成分及び抗炎症成分より選択される1種又は2種以上の成分を皮膚外用剤に配合することにより、エラスチンの有する保湿及び皮膚保護効果を少量の配合で十分に発揮し、さらに皮膚老化防止作用にも優れることを見だし、本発明を完成するに至った。

【0006】

【発明の実施の形態】本発明の実施の形態を説明する。

30 【0007】本発明で使用する魚皮由来加水分解エラスチン溶液は、魚皮を酸若しくはアルカリ、またはエラスターゼ、ペプシン、トリプシンなどの蛋白分解酵素を用いて、加水分解して得られる溶液を用いる。その際、魚皮由来加水分解エラスチン溶液のpHは、皮膚外用剤に配合するその他の成分及び製剤への影響を考慮して、3.5～4.5の範囲に調整することが好ましい。また、魚皮由来加水分解エラスチン溶液を得る魚の種類は、特に限定されず、例えばタラ、サバ、サケ、ニシン、タイ、マグロ、イワシ等が挙げられる。

40 【0008】本発明本で使用する魚皮由来加水分解エラスチン溶液は例えば、タラの皮を粉砕し精製水と混合して、95℃にて1時間加熱した後、エラスターゼを添加して40℃で30時間部分加水分解を行い、次いで95℃で1時間加熱して酵素反応を停止し、pHを4.0に調整し、メンブランフィルターにて除菌ろ過を行うことにより、調製することができる。

【0009】本発明で使用する魚皮由来加水分解エラスチン溶液の皮膚外用剤への配合量は、その効果や製剤の安定性の点から考え、0.0001～5.0重量%の濃度範囲とすることが好ましい。

50 【0010】本発明の皮膚外用剤では、細胞賦活成分及

び抗炎症成分から選択される1種又は2種以上を配合する。

【0011】細胞賦活成分としては、通常の皮膚外用剤に用いられるものであれば、種類や基原は問わない。例えば、細胞賦活成分が、炭素数2〜22の2-ヒドロキシカルボン酸及びその塩並びに誘導体、ビタミンC、E、P関連化合物を除くビタミン様作用物質、核酸関連物質、血清除蛋白抽出物、脾臓抽出物、胎盤抽出物、鶏冠抽出物、ロイヤルゼリー、霊芝抽出物、酵母抽出物、乳酸菌抽出物、ビフィズス菌抽出物、ニガリ成分等が例示される。

【0012】本発明に使用される細胞賦活効果を有する炭素数2〜22の α -ヒドロキシカルボン酸及びその塩並びにその誘導体としては、特に限定されないが、中でも真皮線維芽細胞賦活効果から炭素数2〜6の短鎖 α -ヒドロキシカルボン酸たとえば、 α -ヒドロキシ酢酸、乳酸、リンゴ酸、酒石酸、ピルビン酸、クエン酸及びその塩、また α -ヒドロキシ酸の経皮吸収を改善した、 α -ヒドロキシ酸のアルキルエステル、コレステロールエステル、配糖体、ホスファチジルエステル等が好ましく用いられる。

【0013】さらに、ビタミンC、E、P関連化合物を除くビタミン様作用物質としては、ビタミンA油、酢酸レチノール等のビタミンA類、リボフラビン、酪酸リボフラビン等のビタミンB2類、塩酸ピリドキシン等のビタミンB6類、L-ニコチン酸、ニコチン酸アミド、ニコチン酸ベンジル等のニコチン酸類、及びビオチン等のビタミンH類等が例示される。

【0014】本発明で用いられる核酸関連物質としては特に限定されないが、デオキシリボ核酸及びその塩、アデノシン三リン酸、アデノシン二リン酸などのアデニル酸誘導体及びそれらの塩、リボ核酸及びその塩、グアニン、キサンチン及びそれらの誘導体並びにそれらの塩などが例示される。

【0015】抗炎症成分としては、通常の皮膚外用剤に用いられるものであれば、種類や基原は問わない。例えば、グリチルチリン酸、グリチルレチン酸、イソプロピルアミノカブロン酸、アズレン、リゾチーム、サリチル酸、 γ -オリザノール、アラントイン及びそれらの誘導体並びにそれらの塩等が例示される。

【0016】上記の細胞賦活成分及び抗炎症成分の皮膚外用剤への配合量としては、製剤安定性への影響やバイ*

*オアベイラビリティ等を考慮すると、0.0001〜5重量%程度が適当である。

【0017】本発明においては、魚皮由来加水分解エラスチン溶液と細胞賦活成分及び抗炎症成分から選択される1種又は2種以上を含有させた皮膚外用剤を提供し得るが、皮膚外用剤としては、ローション、乳剤、クリーム、軟膏等の形態をとることができる。またさらに、柔軟性化粧水、収れん性化粧水、洗浄用化粧水などの化粧水類、エモリエントクリーム、モイスチュアクリーム、マッサージクリーム、クレンジングクリーム、メイクアップクリーム等のクリーム類、エモリエント乳液、モイスチュア乳液、ナリシング乳液、クレンジング乳液などの乳液類、ゼリー状パック、ピールオフパック、洗い流しパック、粉末パックなどのパック類、美容液、及び洗顔料といった種々の製剤形態の化粧料としても提供することができる。

【0018】本発明においてはさらに、美白成分や、保湿剤、抗酸化剤、紫外線吸収剤等、他の有効成分を併用することもでき、日焼け止め化粧料、老化防止用化粧料、美白剤などの薬用化粧料あるいは医薬部外品などとして提供することもできる。

【0019】

【実施例】まず本発明の実施例に使用した魚皮由来加水分解エラスチン溶液の製造例を示す。

【0020】〔製造例1〕タラ皮由来エラスチン溶液凍結したタラの皮を粉碎し、3重量倍の精製水と混合する。この混合物を95℃に加熱した後、静置し放冷する。エラスターゼを添加して、40℃で30時間反応させ、部分的に加水分解する。次いで95℃で1時間加熱して、酵素反応を停止させ、濾過して、未加水分解物及び残渣脂肪を除去する。さらに、メンブランフィルターを用いて除菌濾過を行い、タラ皮由来エラスチン溶液を得た。このタラ皮由来エラスチン溶液のpHは、4.0であった。

【0021】製造例1に示したタラ皮由来エラスチン溶液を用いた実施例により、本発明の特徴について詳細に説明する。

【0022】細胞賦活成分、抗炎症成分と、製造例1に示したタラ皮由来エラスチン溶液を表1に示すように用いて、下記の処方により、皮膚用クリームを調製した。

【0023】

〔実施例1〜実施例4、比較例1〜比較例6〕皮膚用クリーム

(1)ミツロウ	6.0(重量%)
(2)セタノール	5.0
(3)還元ラノリン	8.0
(4)スクワラン	37.5
(5)脂肪酸グリセリン	4.0
(6)親油性モノステアリン酸グリセリン	2.0
(7)ポリオキシエチレン(20EO)	

5

6

- ソルビタンモノラウレート
(8)プロピレングリコール
(9)パラヒドロキシ安息香酸メチル
(10)精製水
(11)表1に示した成分
(12)香料

- 2.0
5.0
0.1
全量を100とする量
表1記載の通り
0.2

製法：(1)～(7)の油相成分を混合、溶解して均一とし、75℃に加熱する。一方、(8)～(10)の水相成分を混合、溶解して75℃に加熱する。次いで、上記水相成分に油相成分を添加して予備乳化した後、ホモミキサーにて均一に乳化する。その後冷却し、50℃にて(11)、

(12)を添加、混合する。

【0024】

【表1】

	成分	配合量(重量%)
実施例1	2-ヒドロキシ酢酸	0.1
	製造例1	0.5
実施例2	牛脾臓抽出物	0.05
	製造例1	0.5
実施例3	酵母抽出物	0.5
	製造例1	0.3
実施例4	グリチルリチン酸ジカリウム	0.5
	製造例1	0.3
比較例1	製造例1	1.0
比較例2	2-ヒドロキシ酢酸	0.3
比較例3	牛脾臓抽出物	0.2
比較例4	酵母抽出物	1.0
比較例5	グリチルリチン酸ジカリウム	1.0
比較例6	なし	

【0025】上記の実施例1～実施例4及び比較例1～6について、3ヶ月間の実使用試験を行った。パネラーとして、皮膚の乾燥症状を気にしている40歳代～60歳代の男女、顕著なしわの発生若しくは弾性の低下など*

*の皮膚症状を有する40歳代～60歳代の女性、及び顕著な肌荒れ症状を呈する20歳代～50歳代の女性を用い、それぞれ1群20名とした。使用試験は、各群に実施例及び比較例のそれぞれをブラインドにて使用させ、使用試験開始前と使用試験終了後の皮膚の状態を観察して行った。乾燥症状、しわ及び皮膚弾性の改善状況については、3ヶ月後の肌が使用前と比べて潤い、しわ及び皮膚弾性が改善したと回答したパネルの数にて、表2に示した。また、肌荒れについては、表3に示す判断基準に従って皮膚の状態を点数化し、20名の平均値により使用試験開始前と使用試験終了後を比較して表4に示した。

【0026】

20 【表2】

	乾燥症状	しわ	皮膚弾性
実施例1	20	19	19
実施例2	20	18	20
実施例3	19	20	20
実施例4	20	19	18
比較例1	9	5	6
比較例2	7	10	9
比較例3	6	9	8
比較例4	4	9	9
比較例5	3	4	2
比較例6	1	2	3

30

【0027】

【表3】

皮膚の状態	評価点
皮溝、皮丘の消失及び広範囲の角質層の剥離が認められる	1
皮溝、皮丘が不明瞭で、部分的な角質の剥離が認められる	2
皮溝は認められるが平坦で、皮丘の形が不明瞭である	3
皮溝、皮丘が明瞭である	4
皮溝、皮丘が鮮明で整っている	5

【0028】

【表4】

	使用試験開始 前	使用試験終了 後
実施例1	1. 25	4. 55
実施例2	1. 30	4. 60
実施例3	1. 40	4. 30
実施例4	1. 30	4. 35
比較例1	1. 30	2. 85
比較例2	1. 40	2. 95
比較例3	1. 40	2. 60
比較例4	1. 35	3. 00
比較例5	1. 30	2. 50
比較例6	1. 35	1. 50

【0029】表2に示したとおり、本発明の実施例使用群では、9割以上のパネラーで乾燥症状、しわ、皮膚弾性に改善が認められた。一方、比較例1～比較例5使用*

〔実施例5〕養毛剤

(1)精製水	50.0(重量%)
(2)エタノール	49.2
(3)タラ皮由来エラスチン溶液(製造例1)	0.3
(4)アラントイン	0.5

製法：(1)から(4)の成分を混合、均一化する。

※ ※【0033】

〔実施例6〕美白液

(1)スクワラン	5.0(重量%)
(2)白色ワセリン	2.0
(3)ミツロウ	0.5
(4)ソルビタンセスキオレエート	0.8
(5)ポリオキシエチレンオレイルエーテル(20EO)	1.2
(6)パラオキシ安息香酸メチル	0.1
(7)プロピレングリコール	5.0
(8)精製水	58.6
(9)カルボキシビニルポリマー(1重量%水溶液)	20.0
(10)水酸化カリウム	0.1
(11)タラ皮由来エラスチン溶液(製造例1)	0.5
(12)エタノール	5.0
(13)ロイヤルゼリー	1.0
(14)香料	0.2

製法：(1)～(5)の油相成分を混合し、75℃に加熱して溶解、均一化する。一方、(6)～(8)の水相成分を混合、溶解して75℃に加熱し、前記の油相成分を添加して予備乳化する。(9)を添加した後ホモミキサーにて均★

*群においては、各種成分を配合していない比較例6よりは、乾燥症状、しわ、弾性の改善傾向が認められたが、明確な改善傾向が認められたパネラーはすべて9名以下であった。また、表4に示されるように、本発明の実施例使用群では全パネラーにおいて肌荒れの改善傾向が認められ、殆どのパネラーにおいて、皮溝、皮丘が明瞭に認められるに至っていた。これに対し、各種成分を単独で配合した比較例1～比較例5においては、各種成分を配合していない比較例6より皮膚の状態が改善されていたが、皮溝が平坦で皮丘の形が不明瞭な状態にとどまっていた。

【0030】なお、本発明の実施例1～実施例4については、上記使用試験期間中に含有成分の析出、分離、凝集、変臭、変色といった製剤の状態変化は全く見られなかった。また、各実施例使用群において、皮膚刺激性反応や皮膚感作性反応を示したパネラーは存在しなかった。

【0031】続いて本発明の他の実施例の処方を示す。

【0032】

★一に乳化し、(10)を加えてpHを調整する。冷却後40℃にて(11)～(14)を添加、混合する。

【0034】

〔実施例7〕皮膚用ローション

(1)エタノール	10.0(重量%)
(2)ヒドロキシエチルセルロース	1.0
(3)タラ皮由来エラスチン溶液(製造例1)	0.5
(4)パラオキシ安息香酸メチル	0.1
(5)グリセリン	7.0

9

10

(6)グアiazレンスルホン酸ナトリウム

0.5

(7)精製水

80.9

製法：(1)～(7)を混合し、均一とする。

* * 【0035】

【実施例8】皮膚用乳剤

(1)ステアリン酸

0.2(重量%)

(2)セタノール

1.5

(3)ワセリン

3.0

(4)流動パラフィン

7.0

(5)ポリオキシエチレン(10EO)モノオレイン酸エステル

1.5

(6)乳酸菌抽出物

0.5

(7)グリセリン

5.0

(8)パラオキシ安息香酸メチル

0.1

(9)トリエタノールアミン

1.0

(10)精製水

79.2

(11)タラ皮由来エラスチン溶液(製造例1)

1.0

製法：(1)～(6)の油相成分を混合、加熱して均一に溶

※油相成分を攪拌しながら徐々に添加して乳化し、冷却し

解し、70℃に保つ。一方、(7)～(10)の水相成分を混

た後40℃にて(11)の成分を添加、混合する。

合、加熱して均一とし、70℃とする。この水相成分に※

【0036】

【実施例9】皮膚用ゲル剤

(1)精製水

89.3(重量%)

(2)カルボキシビニルポリマー

0.5

(3)ジプロピレングリコール

8.0

(4)パラオキシ安息香酸メチル

0.1

(5)水酸化カリウム

0.1

(6)タラ皮由来エラスチン溶液(製造例1)

1.0

(7)胎盤抽出物

1.0

製法：(1)に(2)を均一に溶解した後、(3)に(4)を溶

★(7)の成分を添加する。

解して添加し、次いで(5)を加えて増粘させ、(6)、

★ 【0037】

【実施例10】皮膚用クリーム

(1)ミツロウ

6.0(重量%)

(2)セタノール

5.0

(3)還元ラノリン

8.0

(4)スクワラン

29.5

(5)親油型グリセリルモノステアリン酸エステル

4.0

(6)ポリオキシエチレン(20EO)

ソルビタンモノラウリン酸エステル

5.0

(7)プロピレングリコール

5.0

(8)パラオキシ安息香酸メチル

0.1

(9)精製水

35.4

(10)タラ皮由来エラスチン溶液(製造例1)

1.0

(11)乳酸ナトリウム

1.0

製法：(1)～(6)の油相成分を混合、溶解して75℃に

☆化し、冷却後40℃にて(10)、(11)の成分を添加、混合

加熱する。一方、(7)～(9)の水相成分を混合、溶解し

する。

て75℃に加熱する。次いで、上記水相成分に油相成分

【0038】

を添加して予備乳化した後、ホモミキサーにて均一に乳☆

【実施例11】水中油型乳剤性軟膏

(1)白色ワセリン

25.0(重量%)

(2)ステアリルアルコール

25.0

(3)グリセリン

10.0

(4)ラウリル硫酸ナトリウム

1.0

(7)

特開2001-72572

11

12

(5)パラオキシ安息香酸メチル

0.1

(6)精製水

36.9

(7)タラ皮由来エラスチン溶液(製造例1)

1.0

(8)乳酸菌発酵液

1.0

製法：(1)～(4)の油相成分を混合，溶解して均一とし、75℃に加熱する。一方、(5)を(6)に溶解して75℃に加熱し、これに前記油相成分を添加して乳化し、*冷却後40℃にて(7)、(8)の成分を添加，混合する。

5℃に加熱し、これに前記油相成分を添加して乳化し、* 【0039】

[実施例12]化粧水

(1)エタノール

10.0(重量%)

(2)1,3-ブチレングリコール

10.0

(3)タラ皮由来エラスチン溶液(製造例1)

0.5

(4)グリチルリチン酸ジカリウム

0.5

(5)香料

0.1

(6)精製水

78.9

製法：(1)～(5)を順次(6)に添加して均一に混合，溶 ※【0040】

解する。

※

[実施例13]油中水乳化型エモリエントクリーム

(1)流動パラフィン

36.0(重量%)

(2)マイクロクリスタリンワックス

2.0

(3)ワセリン

5.0

(4)ジグリセリルオレイン酸エステル

5.0

(5)γ-オリザノール

1.0

(6)プロピレングリコール

3.0

(7)パラオキシ安息香酸メチル

0.1

(8)精製水

47.3

(9)タラ皮由来エラスチン溶液(製造例1)

0.5

(10)香料

0.1

製法：(1)～(5)の油相成分を混合，溶解して均一とし、75℃に加熱する。一方、(6)～(9)の水相成分を★分に添加し、ホモミキサーにて乳化する。冷却後40℃にて(10)の成分を添加，混合する。

混合，溶解して均一とし、75℃に加熱し、前記油相成分★30 【0041】

[実施例14]メイクアップベースクリーム

(1)ステアリン酸

12.0(重量%)

(2)セタノール

2.0

(3)グリセリルトリ-2-エチルヘキサン酸エステル

2.5

(4)自己乳化型グリセリルモノステアリン酸エステル

2.0

(5)プロピレングリコール

10.0

(6)水酸化カリウム

0.3

(7)精製水

67.6

(8)酸化チタン

1.0

(9)ベンガラ

0.1

(10)黄酸化鉄

0.4

(11)香料

0.1

(12)タラ皮由来エラスチン溶液(製造例1)

1.0

(13)鶏冠抽出物

1.0

製法：(1)～(4)の油相成分を混合し、75℃に加熱して均一とする。一方、(5)～(7)の成分を混合し、75℃に加熱，溶解して均一とし、これに(8)～(10)の顔料を添加し、ホモミキサーにて均一に分散させ水相成分と☆する。この水相成分に前記油相成分を添加し、ホモミキサーにて乳化した後冷却し、40℃にて(11)～(13)の成分を添加，混合する。

を添加し、ホモミキサーにて均一に分散させ水相成分と☆ 【0042】

[実施例15]乳液状ファンデーション

(1)ステアリン酸

2.0(重量%)

13	14
(2)スクワラン	5.0
(3)ミリスチン酸オクチルドデシル	5.0
(4)セタノール	1.0
(5)デカグリセリルモノイソパレミチン酸エステル	9.0
(6)1,3-ブチレングリコール	8.0
(7)水酸化カリウム	0.1
(8)パラオキシ安息香酸メチル	0.1
(9)精製水	50.8
(10)酸化チタン	9.0
(11)タルク	7.4
(12)ベンガラ	0.5
(13)黄酸化鉄	1.1
(14)黒酸化鉄	0.1
(15)香料	0.1
(16)タラ皮由来エラスチン溶液(製造例1)	0.5
(17)海水乾燥末(ニガリ)	0.3

製法：(1)～(5)の油相成分を混合し、75℃に加熱して均一とする。一方、(6)～(9)の水相成分を混合し、75℃に加熱、溶解して均一とし、これに(10)～(14)の*

*顔料を添加し、ホモキサーにて均一に乳化した後冷却し、40℃にて(15)～(17)の成分を添加、混合する。

【0043】

【実施例16】ハンドクリーム

(1)セタノール	4.0(重量%)
(2)ワセリン	2.0
(3)流動パラフィン	10.0
(4)グリセリルモノステアリン酸エステル	1.5
(5)ポリオキシエチレン(60EO)	
グリセリルイソステアリン酸エステル	2.5
(6)酢酸トコフェロール	0.5
(7)グリセリン	20.0
(8)パラオキシ安息香酸メチル	0.1
(9)精製水	57.4
(10)タラ皮由来エラスチン溶液(製造例1)	1.0
(11)血清除蛋白抽出物	1.0

製法：(1)～(6)の油相成分を混合、溶解して75℃に加熱する。一方、(7)～(9)の水相成分を混合、溶解して75℃に加熱する。ついで、水相成分に油相成分を添加して予備乳化した後、ホモキサーにて均一に乳化して冷却し、40℃にて(10)及び(11)の成分を添加、混合する。

※【0044】

【発明の効果】魚皮由来の加水分解エラスチン溶液と細胞賦活成分、抗炎症成分を配合した皮膚外用剤は、保湿作用及び真皮線維芽細胞活性化作用が相乗的に増強され、しわの発生、皮膚弾性の低下といった皮膚老化症状の防止あるいは改善に有効であることが示された。

フロントページの続き

(51)Int. Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード(参考)
A61K 7/06		A61K 7/06	
31/00		31/00	
35/12		35/12	
35/28		35/28	
35/50		35/50	
35/64		35/64	
35/72		35/72	

35/74
35/84
38/00
// A 6 1 K 35/60

35/74
35/84
35/60
37/02

A

F ターム(参考) 4C083 AA031 AA032 AA071 AA072
AA081 AA082 AA111 AA161
AA162 AB052 AB232 AB242
AB332 AB442 AC012 AC022
AC031 AC072 AC102 AC112
AC122 AC182 AC242 AC301
AC302 AC311 AC352 AC392
AC422 AC442 AC482 AC542
AC581 AC681 AC782 AD092
AD282 AD411 AD412 AD471
AD512 AD531 AD532 AD601
AD621 AD631 AD651 AD662
AD671 BB51 CC02 CC04
CC05 CC14 CC37 DD22 DD31
DD32 DD33 DD41 EE12 EE22
4C084 AA02 AA24 BA43 CA03 CA13
CA25 CA29 CA36 CA41 CA45
MA63 NA02 NA11 ZA891
ZA892 ZB221 ZB222
4C087 AA01 BB21 BB29 BB35 BB44
BB58 BC11 BC56 CA11 MA63
NA02 NA11 ZA89 ZB22
4C088 AA06 AC16 BA05 BA37 MA63
NA02 NA11 ZA89 ZB22
4C206 AA01 AA02 DA14 DA19 FA44
MA01 MA02 MA04 MA83 NA02
NA11 ZA89 ZB22